

# 世界仏教文化研究センター国際研究部門年次経過報告 評価要項

2017（平成29）年7月14日 制定

## 1. 評価の意義・目的

仏教研究の国際的プラットフォーム形成をめざす世界仏教文化研究センターの設立趣旨にもとづいて、仏教の総合的学術研究の推進につとめる諸研究の支援・向上を意義・目的として、建設的な研究評価を行なう。

## 2. 評価委員会の構成

評価委員会は世界仏教文化研究センター長と国際研究部門長とが合議の上で委嘱した者若干名によって構成し、世界仏教文化研究センター長を委員長とする。

## 3. 評価方法

評価委員は、評価対象となる研究班の「研究年次経過報告書」について5段階評点方式による評価を行い、評価票を作成する。評価票をもとに評価委員会で総合的に評価を行う。なお、不明な点がある場合、評価委員会はヒアリングを行うことができるものとする。

## 4. 成果の公開

- (1) 次のいずれかの方法において研究成果を公開しなければならない。
  - ① 研究期間終了翌年度9月末までに、『世界仏教文化研究センター紀要』に研究成果を報告する。
  - ② 研究期間終了後2年以内に刊行物を刊行する。
- (2) 『世界仏教文化研究』（E-journal）の刊行担当部門として、世界仏教文化研究センター3部門の研究成果の発信を担う。

## 5. 評価基準

評価委員は、申請時に提出された「国際研究部門予算申請書」と毎年度終了時に提出される「研究年次経過報告書」を比較し、下記の項目について評価を行う。

- (1) 研究成果（達成度）の概要について  
研究期間中に得られた研究成果は、申請時の研究目的・研究計画・方法に比べ、どの程度達成されているかを評価する。
- (2) 収支決算について  
研究計画のとおり適正に支出されているか否かを評価する。もし、当初予算から大幅な変更が生じている場合は、その経緯の説明が妥当かどうかを合わせて評価する。
- (3) 研究成果について  
以下の3点について評価する。
  - ① 研究テーマに即した論文・口頭発表。
  - ② 研究計画に基づく図書（善本叢書・研究叢書・講演叢書）の刊行、あるいはシンポジウムの小冊子等の作成。
  - ③ 研究テーマに即したシンポジウム・講演会・セミナー・ワークショップなどの諸活動。
- (4) 総合所見  
世界仏教文化研究センターの研究プロジェクトとして、十分に目的を達成しているか否かを総合的に評価する。

なお、評価は5段階評点方式とし、各基準は次のとおりとする。

【 評 点 】 申請時の目的・計画等と比較して

項目(1)(3)(4)

- 5 : 非常に優れた成果がある
- 4 : 優れた成果がある
- 3 : 一定の成果を得ている
- 2 : あまり成果がない
- 1 : ほとんど成果がない

項目(2)

- 5 : 良好である
- 4 : 概ね良好である
- 3 : 普通
- 2 : あまり良くない
- 1 : 良くない

## 6. 評価結果の取り扱い

部門統括者に結果を通知する。その際、研究進捗状況に改善が必要であると判断した場合は、その旨を明確に伝える。

## 7. 研究年次経過報告書の公開

世界仏教文化研究センターウェブサイトで公開する。

以 上